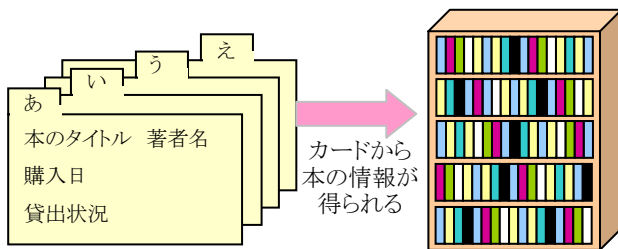


文化資料収集データベース① データベースとは

身近なデータベース

例1：コンピュータ外—図書館の図書カード

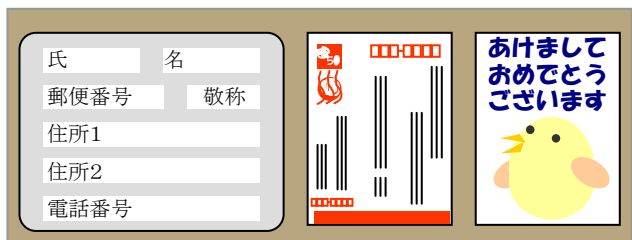
- 本のタイトルから、その図書カードを探し出すと図書カードから本の場所や貸出状況が分かる
- 図書カード(本のデータ)が入った棚はデータベースと同様



他にも、電話帳やカタログ雑誌など・・・

例2：コンピュータ上—年賀状の住所録

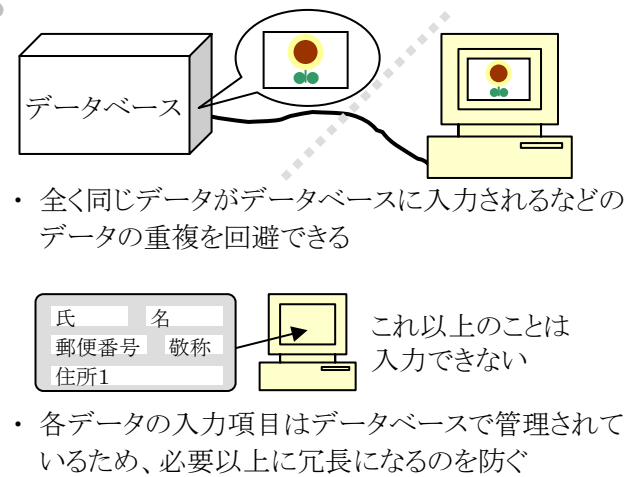
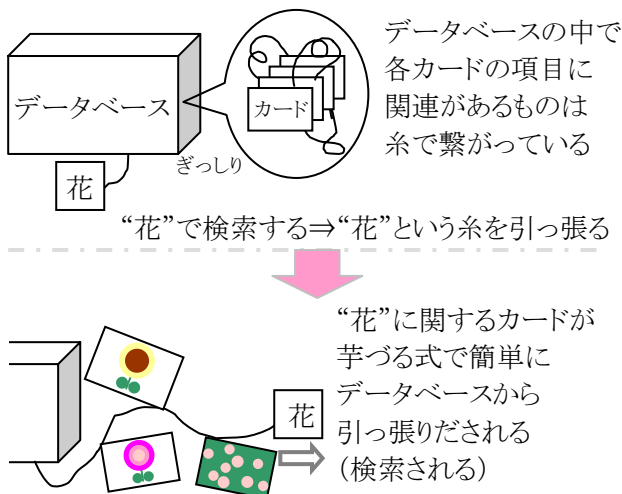
- 個人の情報(宛先・氏名・電話番号など)を入力したカードが作成され、そのデータをもとに年賀状を作成・印刷する
- ソフトを用いてデータベースを操作している



他にも、整頓したデジタルカメラの画像など・・・

データベースの特徴

コンピュータ上におけるデータベースの主な長所



検索が容易で速い ① ② 大量のデータを効率よく格納できる

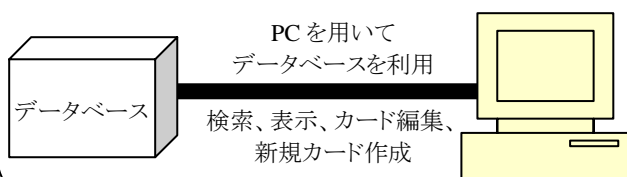
データを効率よく、多目的に活用できる ③ ④ 十分なセキュリティ

利用者の目的に合わせて、データベースの中からカードを検索や表示、編集、作成などができる

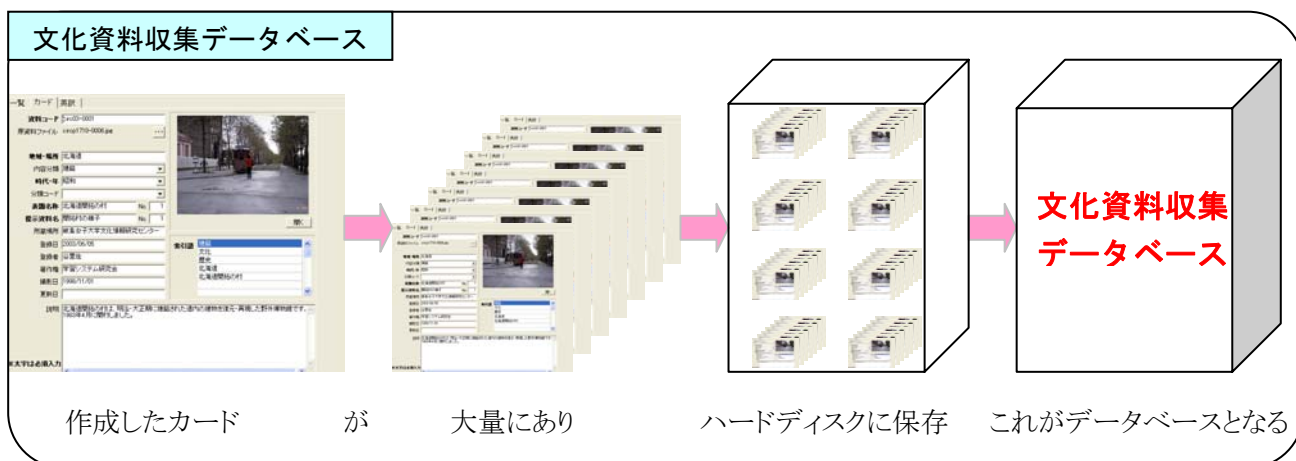
- 様々な項目でカードを検索
- カードをある項目の特定のルールで並び替え
- カードの項目のうち、必要な項目だけを表示

データベースにデータを保存することで、セキュリティ強化にもつながる

- アクセス権限のない利用者がデータベースを利用できないように設定することで、データベースを防御できる
- またデータベースでは管理を徹底することができ、データベースからデータが洩れるのを防ぐ



文化資料収集データベース②文化資料収集データベースの仕組み



項目の意味

一覧 | **カード** | 英訳

資料コード	資料管理全体から定められた資料番号	
原資料ファイル	データベースに入れる資料のファイル名	原資料(JPG または BMP のみを縮小)表示 右下の“開く”ボタンで原資料ファイルを開く
地域・場所	資料が実際に在る場所(県・市町村・地方)	
内容分類	資料内容の分類を右の▼から選択	
時代・年	資料と関係ある時代や年を▼から選択	
分類コード	利用できる分野を▼から選択	
表題名称	資料の表題	No. 同じ資料を区別するための番号
提示資料名	提示している資料名	No. 資料の通番(シリーズ番号)
利用分野	資料の利用を想定している分野	
所蔵場所	カードを作成し、データベースに登録した日付	索引語
登録日	データベースに登録した人の名前	資料に関連した言語 10文字以内、最大30個
登録者	資料の著作権を所持している団体・人など	
著作権	資料を撮影した日付	
撮影日	カードを更新した日付	
説明	資料についての簡単な説明	

※太字は必須入力